

NPO 法人

第69号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578  
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## 第46代 孝謙天皇が芦安大宝寺に!?

芦安ファンクラブ 清水毅

6月8日(金)芦安山岳館において、「鳳凰三山」と題して芦安ファンクラブ主催のミニミニ講演会が開かれ、地元の中学生や、翌日の登山教室の参加者、地域の人達が会場一杯に集まった。

講師は、川崎市にお住まいの松本茂雄先生にお願いした。

松本先生は、退職後始めた登山で友人と鳳凰三山に登り、その時、奈良田・芦安や孝謙天皇(女帝)の伝説を聞き、一気に引き込まれたとか。

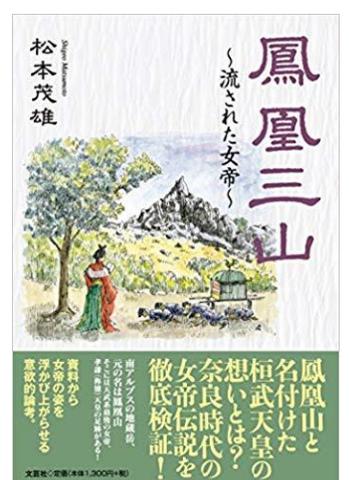
鳳凰山の名称について、奈良朝のはるか昔孝謙女帝がこの山に登られたという伝説が秘められている。それが芦安と奈良田とそして鳳凰三山とどこでどんなつながりが有るのか。

その時代、天皇に自分の娘を嫁がせ外戚として権力を強めていた藤原氏との政争に敗れ、遠く甲斐の国に流された女帝(説)。

藤原氏の国内における政治的亡命地としての奈良田。その経由地としての芦安大宝寺(大宝寺由来による)。流されてから病死するまでの100余日の間に今の地蔵ヶ岳の辺りに登り開山し、その時孝謙天皇は出家して法王を名乗っていたので「法王山」とする。後に桓武天皇が供養し名前を「鳳凰山」と替えた。等々、はるか王朝の世に心を馳せる快感を味わった。

尚、後の明治期に陸軍測量部により誤って「地蔵ヶ岳」とされてしまい、仕方なしに観音・薬師と共に「鳳凰三山」と呼び継がれている。

松本先生は、あらゆる文献・資料を調査し聞き取りをし、調べ尽くした結果を「鳳凰三山」～流された女帝～として出版されている。是非一読を。仮説ではあるが後の世に正しい歴史として評価されるかも知れない夢の世界を楽しんでいただきたい。



地元の中学生をはじめ、多くの人が参加した

# 南アルプス学講座から 「南アルプスの山々の魅力⑤」

前芦安山岳館館長 塩沢久仙

全 11 回の連続講座として開催された「南アルプス学講座」。その中から、故塩沢久仙さんの講座の内容を抜粋してご紹介しています。今回はその 5 回目、間ノ岳です！

## 間ノ岳(あいのだけ)

3190m 南アルプス市、早川町、静岡市



北岳トラバース道  
から間ノ岳を望む

### 概要

白根三山の真ん中に位置する日本第 3 位の山。2014 年 4 月に国土地理院が最新の計測データに基づいて間ノ岳の標高を 1m 高く改訂したため、それまでの 4 位から奥穂高岳と同列の 3 位に浮上した。北の北岳、南の農鳥岳の間にあるので間ノ岳という名前になった経緯があるが、元々は農鳥山であった可能性がある。

間ノ岳は白根三山の中で最も山体が大きく、甲府盆地からは際立った山容を示す。間ノ岳の西側のピークである三峰岳(2999m)は静岡、山梨、長野県の 3 県境にあたり富士川、天竜川、大井川が合わさる場所にあたる南アルプスのヘソのような位置になる。

## 歴史

甲斐国志では白根三山については、白峰、中峰、別当代としている。その中で中峰を間ノ岳あるいは中岳と称し、峰下に鳥の雪形が出現することが記述されている。深田久弥の日本百名山の中でも「間ノ岳にも歴とした鳥の形の現われることが知られた」とあり、間ノ岳は本来農鳥山であった可能性が高い。この鳥形は細沢カール内に出現する。なお明治 42 年（1909 年）小島烏水は、塩見岳について赤石岳縦走記録で「赤石の間ノ岳」と記述しており、当時の地図にも塩見岳の位置に間ノ岳との表記を見ることが出来る。それに対し、現在の間ノ岳は白峰の間ノ岳と記載している地図も存在する。

明治 14 年（1881 年）日本研究家の第一人者であるアーネスト・サトウが農鳥岳と合わせて登頂している。アーネスト・サトウは奈良田から農鳥岳を経て間ノ岳山頂に着いたが、そこから北の北岳を見て、明らかに間ノ岳のほうが高く、この付近の最高峰は間ノ岳であるとして、北岳にはあえて登頂しなかった。後にサトウは、これを訂正して北岳のほうが高いとしている。明治 37 年（1904 年）にウエストーンが北岳、鳳凰山及び仙丈ヶ岳とあわせて登頂している。明治 41 年（1908 年）に小島烏水らは白峰三山を南側から縦走して登頂を果たしている。

大正 14 年（1925 年）に京都三高山岳部の 4 人が積雪期初登頂し、昭和 3 年（1928 年）1 月に慶應義塾大学山岳部の国文貴一、野村実ら 4 人が厳冬期初登頂を果たしている。野村実は野村財閥の御曹司であるが、2 年後の昭和 5 年（1930 年）1 月に大樺沢にて雪崩により遭難死した。



夜叉神峠から白峰三山

## 地形地質

間ノ岳の山体は四万十帯白根層群の緑色岩、泥岩、砂岩、チャートで形成されている。間ノ岳の山頂付近は強い圧力変成を受けた砂岩や泥岩が卓越しており、そのため間ノ岳の山頂付近はなだらかとなっている。

山頂東側にはモレーンを伴う細沢カールとそれに連続するU字谷の細沢、北東部には北沢カールがある。山頂付近には線状凹地が存在し、広い山頂を形成している。南側の稜線上には大小多数の凹凸が発達する。これらの線状凹地や凹凸は、隆起に伴って自重によって山体が移動しているためであり、いまま GPS などを使った研究が進んでいる。



間ノ岳山頂から北岳を望む

## 動植物

間ノ岳の山頂付近は砂礫地が広がっており、コマバツガザクラやミネズオウなどがみられる。その間を埋めるようにハイマツがみられ、標高が下がるにつれ斜面を埋めるようになる。その下部にはダケカンバの優占林がみられるが、東斜面では帯をなすように顕著な分布を示すのに対し、三峰岳から熊の平に至る稜線などでは、ダケカンバ林の分布は少ない。

その一方で、シラビソを主とする亜高山性針葉樹林が高標高まで分布している。なお、東斜面では標高 2300m 以下でないといふと亜高山性針葉樹林はみられない。間ノ岳山頂直下の標高 3050m 付近のハイマツ低木林内にはオオシラビソが単木的にみられ、このオオシラビソは世界最高分布地点である。

# 第46回登山教室レポート(鳳凰三山)

## ～参加者の皆さんから～

### 中津川文江さん(栃木県下野市)

天気予報は、初日のみ曇りで、雨の予想。快晴の山々を望みたい気持ちと曇天の方がライチョウは出てきてくれるかもという期待で、参加しました。参加者は、男性3人、女性2人で、知識、経験が豊富な方ばかりで、トレッキング中、山小屋で、いろいろなお話を聞く事ができました。山小屋は2泊とも貸し切り状態でした。

南御室小屋は、建物は古いですが3℃の天然水があり、コーヒーやご飯がとても美味しかったです。吐く息が白いくらいの気温でしたので、洗面には、気合がいました。

午後の気持ちの良い空のもと、南御室小屋のテラスでコーヒーやビールを片手に地図読み、山登りの心得、鳳凰三山の沿革などの座学がありました。地蔵岳のオベリスク、白峰三山が雲の上に綺麗に見えました。

昨年出来たばかりの薬師小屋は、小屋と言うより大きな民家で、他に登山者がいなかったのも、個室を使わせていただきました。水さえあれば、普段と変わらない環境でした。ガイドの井口さんから、子宝に恵まれない人は、地蔵岳の賽の河原から、地蔵を借り受けてくると子供ができる。授かったら、地蔵を2体返すという話を伺いました。一体25キロの地蔵を持ち運ぶのは、女性には厳しいので、次に鳳凰山に登る時には、タガネを持ってきて山小屋で、小石に目鼻を描き、地蔵風にして、奉納すれば、環境にも自分にも優しいかなあと勝手な想像を巡らせました。

今回見れたのは、カモシカとアズマヒキガエル、ルリビタキのみでしたが、薬師小屋周辺にはオコジョも生息しているとの事。またいつか訪れてみたいです。



小屋前での座学



新築されたばかりの薬師岳小屋



樹林帯の中の静かな南御室小屋



地蔵岳賽の河原の子安地蔵郡

### 岡野芳洋さん（山梨県南アルプス市）

芦安登山教室は経験豊富な指導員のガイドのおかげで、普段単独の登山より、活動量の多い登山ややや難易度の高い登山ができ、安全に楽しみながら、自分の力量を測りまた磨く、大変良い機会になります。

鳳凰二山での登山教室は過去2回お世話になっていますが、特に今回は、今まで、観音岳から眼前に眺めるのみであった地藏岳も加わり、“鳳凰三山”となり大幅魅力アップです。

当日の天気予報では折しも、2日目、3日目は雨ということで、全行程はほぼ諦めムードのスタートでしたが、ガイドさんの機転で初日に辻山展望の前倒しや、2日目行程を早めに終えて薬師小屋に戻ること、天候変化の微妙な遅れも味方し、地藏岳や賽の河原お地藏さん、また白峰三山の展望もしっかりみることができ、最高の山行となりました。

残念ながら雷鳥には出会えなかったけれど、コイワカガミが三山のあちこちに咲いていたのが強く印象に残りました。ガイドさん及びスタッフの皆様、ありがとうございました。



コイワカガミ (辻山にて)



岩場は慎重に

### 小林圭一さん（埼玉県所沢市）

先日の鳳凰三山の登山教室は幸いにも天気予報がズれてくれて一日目、二日目と助かりました。地元の皆さんが三山を始め山々を、自然を、大切にされている様子が毎回感じられます。

諸人(もろびと)の願いを叶えし 地藏仏  
微笑(ほほえみ)湛(ただ)え 甲斐駒を背に

オベリスク 梅雨空突き刺す 穂先かな

孫誕生 返礼地藏と 登る三山

梅雨切りし 賽の河原の 地藏仏



北岳と仙丈



甲斐駒と地藏岳



地藏岳オベリスク

# 第8回「新緑やまぶき祭」報告

## やまぶきツアー（伝説・歴史の宝庫、芦安を訪ねて）

### 芦安ファンクラブ 堀内 訓

今年もやってきました『やまぶきツアー』。ファンクラブからは3名の会員がガイドを引き受けました。空を見上げると、今にも雨が降りそうな天気。今日のためにポイントの説明を“こていさら”（十分に：方言）学習して、また、昨日は足場の悪い箇所を清掃してきた我々は気が気ではありません。どうか、今日一日持ってくれ。また、天を見上げ、祈る気持ちで出発時間を待ちました。ツアーバスは2台で3便。1周が約1時間のコースです。さあ、お客さんも続々と集まってきました。今回ツアーで行った内容を紹介します。

#### ポイント1 芦安堰堤

御勅刺川はあばれ川だった。かつては、水出川といわれたくらい、人々は災害をこうむってきた。そこで、先人たちは数々の治水の工夫を行ってきた。武田信玄の石積み出し・将棋頭・高岩・信玄堤等はよく知られている。大正5年から建設を開始した芦安堰堤は、日本で最初のコンクリートで造られた砂防ダムだ。日本の英知を結集して、地元の人が石を積んだ。この時代のコンクリートは貴重品。当時の金額で9万6千円（現在5億円以上）大正15年完成した。下部は重力式、上部はアーチ式構造になっている。その後、この工法は世界に広がっていった。

#### ポイント2 鏡立石

絶世の美女、虎御前とは何者か。三大あだ討ち曾我物語（平安・鎌倉時代）に登場する。舞台は伊豆、物語は幼き兄弟（十郎・五郎）のおじいちゃん河津祐泰（かわすすけやす）が兄弟の従兄弟に当たる工藤祐経（すけつね）の伊豆の所領を奪ったことに始まる。祐経は恨みに思って家来に祐泰を襲わせる。ところが、曾我兄弟の父親である伊東祐親（すけちか）に矢が当たってしまう。曾我の兄十郎は5歳、弟の五郎は3歳。

幼いながらも、2人は父の敵を打つことを誓う。ところが、弟五郎は出家させられたり、母親に敵討ちをやめるように説得されたりする。しかし、諦めることなく成長する。十郎は成長して、虎御前と恋仲になる。虎御前は芦安で生まれ、大磯に養女に出されていた。

鎌倉幕府が成立する。将軍源頼朝が富士で巻狩りを行なった。兄弟は、巻き狩りの夜に18年に及ぶあだ討ちの本懐を遂げた。しかし、兄は討ち死に、弟は頼朝にあだ討ち本懐を報告しようとしたが、身辺警護の御所五郎丸が女装して近づき、油断した五郎は取り押さえられてしまった。翌日重臣が立ち会う中で、五郎の尋問が始まる。頼朝は許そうと思ったが、祐経の子どもがにらむ。あだ討ちが繰り返される恐れから、五郎はあえなく斬首されてしまった。尋問の中に、南アルプスゆかりの小笠原長清公も同席していた。

虎御前は十郎の霊をともなうために善光寺に参る途中で芦安に立ちよる。虎御前は鏡立石に鏡を立てて、髪を結いながら十郎との思い出に慕ったのだ。機転を利かして五郎を捕らえた御所五郎丸は女装があるまじき行為とされ、野牛島（観音堂）に流された。南アルプス市に虎御前と御所五郎丸、小笠原長清公（小笠原流礼法）が同時期にいたということも、不思議な縁ですね。

ポイント3  
大宝寺

武田信虎の家臣で一流の武将だった名取将監（しょうげん）の墓がある。信虎は激しい強引な性格で知られていた。将監は信虎に様々な進言をしたが聞き入れられない。さらに怒りをかけてしまうことになった。将監は武田家をでて、芦安に住むことになった。そこで、この地を殿屋敷と呼ぶようになった。将監は狩りで鹿を射止めた。しかし、夜になってしまい、あたりは真っ暗。周りには獣の声。将監は観音経を唱えて夜を明かしたと伝えられている。この地を観音峡と呼ばれるようになった。また、奈良時代には、孝謙天皇が病床で甲斐の国、湯島の霊場（西山温泉）で湯治をするとよいと、夢枕でお告げをいただいた。桃の木ノコヤ峠を越えて奈良田に向かう途中に大曾利の白鳳老の案内でこのお寺で休んだといわれている。孝謙天皇は湯治をしながら、ふと見上げると素晴らしい山があることに気がついた。あの山に登ってみたい。その山こそ法皇山、後の『鳳凰山』なのだ。

# ロッククライミング体験コーナー

## 芦安ファンクラブ 西村正人

5月13日（日）、南アルプス市芦安小学校の校庭にて恒例の「新緑やまぶき祭」が開催されました。午前中は曇りで午後には雨となってしまいましたが、今年もいろいろな催しものと大勢の参加者で大変にぎわいました。芦安ファンクラブでは、「史跡巡りツアー」「ロッククライミング体験コーナー」を行い、多数の参加を頂きました。

私は、ロッククライミング体験コーナーを担当しました。

子供たちにハーネスとシューズを装着し、クライミングボードを登ってもらいました。約3.5mの高さをあっという間に上ってしまう子、得意なポーズで写真を撮ってもらう子など、ボードがほとんど空かないような大変人気のコーナーでした。自分の力で高い所に上った子供を喜ぶ家族の笑顔も大変素敵でした。

安全第一を心掛けながら、また来年も喜んで頂けるといいなと感じました。



クライミングコーナー準備完了！

# 南アルプス開山祭

芦安ファンクラブ 入倉 利也

6月23日、南アルプス夏山シーズンの幕開けとなる開山祭が広河原インフォメーションセンター前で行われました。開山祭では、芦安中学校生徒による賛歌合唱や、夜叉神太鼓演奏などが行われたり、登山の安全を祈願して「蔓払い」の儀式が行われたりしました。蔓払いには小天狗役として西村正人さんと私が勤め、他のメンバーも受付や献花の補助、準備などスタッフとしてお手伝いをさせて頂きました。今年も登山者の安全と事故の無いシーズンになる事を願っています。



儀式を待つばかり



大天狗(中央)と小天狗



山の神へ祈願文を読み上げ



斧で蔓を切り払います

# 山と人のシンポジウムに参加して

芦安ファンクラブ 中島 紫穂

「なぜ、私達にとって山は必要なのか？」という言葉から始まるマーティン・プライス氏の講演。山は生き物が生命を維持する為に絶対に必要な「水」を作り出す場所。だから昔の人は山に住んでいた。まさに芦安地域は人の原点の場所なのだとあらためて感じた。

登山道の維持管理について北海道大学地球環境科学研究所、渡邊悌二氏よりお話があった。好ましくない現象(登山道の荒廃)を、学ぶ楽しみに変革していく手法が興味深かった。「山と人の距離を縮める努力」という言葉が印象的だった。他にも自然の知識が深まる講演や信越ロングトレイルを通じた地域の活性化や観光の取り組みが紹介されており、芦安での取り組みを深める為には多種多様な知識が必要だとあらためて感じた。



山と人のシンポジウム～世界と地域からの展望～

主催：長野県環境保全研究所・筑波大学山岳科学センター

基調講演：「なぜ私達にとって山は大切なのか？」

マーティン・プライス（ハイランズ・アイランズ大学／ユネスコ「山岳の持続可能な開発」議長）

## ♪新入会員♪ 鈴木 一江（すずき かずえ）さん

はじめまして！昨年度より南アルプス市芦安にて地域おこし協力隊をしています。鈴木一江です。現住まいは、芦安地区沓沢。芦安の中でも一番高いところにて、御勅使川の川音をバックミュージックに、鳥の声で目覚め、星の輝きに包まれて眠る生活を楽しまれています。と書くと聞こえはいいですが、実際は庭の元気の良い草と家の中まで上がってくる行動範囲の広い虫たちにやられっぱなしです。

生まれは、山梨県大月市。田んぼと畑があり、鶏がいて、お風呂は薪、トイレはNO水洗という家に育ちました。1,000m前後の裏山は子供の頃の遊び場でした。山が近くに迫っているととても落ち着きます。しかし、芦安の山はとても険しく、後ろにそびえ立つ南アルプスの山々はあまりにも大きく、圧倒されっぱなしですが、少しずつ、挑戦して行けたらと思っています。

子供の頃から動物が大好きで、動物たちの棲む森、山に惹かれていきました。私に出来ることをコツコツと積み重ねて行けたらと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



## ♪新入会員♪ 岩間 修（いわま おさむ）さん

はじめまして。4月から入会しました、甲府在住の岩間修と申します。

山には山岳会に入っていた父親に連れられ、子供の頃から親しんでいました。しかしそれ以上でも以下でもなく、20代は自転車にはまりサイクリングやロードレースに出場していました。

自分自身、意識をして山に登り始めたのは、30歳になってからです。望月仁美さんも所属している甲府雪稜クラブに入り、一年後には、「目指せ、北岳バトレス」を合言葉に四尾根に取り付いていました。

現代のプライベート山行は、夏は沢登り冬は雪稜縦走・アイスクライミングなどバリエーションが主体です。ガイド資格を取り南アルプスガイドクラブに入り、一昨年からは時々御池小屋のお手伝いをしています。山岳連盟の関係から芦安駐車場の登山案内、また大久保基金の会など何かとこの地に関係する事が多くなり、芦安ファンクラブに入会したいと考えておりました。よろしくお願いいたします。



## ♪新入会員♪ 富山 繁樹（とみやま しげき）さん

はじめまして。4月より縁あってファンクラブの末席に加えて頂きました富山繁樹と申します。神奈川県鶴見という工業地帯の生まれで、たぶんではありますが身近に『自然』や『緑』の極めて少ない環境だった故に山紫水明への憧れが潜在的に（強く）あったようです。その為か約20年前に山梨県の早川町へ移住し現在に至っています。

芦安の思い出という、これまた20数年前に鳳凰三山に登った際、その時は御座石より入山して夜叉神へ下山のコースだったのですが、南御室小屋を過ぎた辺りから右膝が痛み出しついで左足も。当時は登山用のストックなどはあまり普及しておらず捨てた杖を杖代わりにすがりながらの下降。当初午後半ばのバスに余裕で間に合うつもりが最終バスもヤバイ按配に。夜叉神峠からは後ろ向きに下るのまで交えてぎりぎりバスに間に合ったということがあります。今、夜叉神峠は新緑まぶしく白峰三山は白く輝いていることと申しますし当時もそうだったのでしょうがとても辺りを眺める余裕が無く、まったく記憶にありません（勿体無い）。今後夜叉神峠を初めとして幾多の山々へ同道する機会もあるかと思えます。その際は景色を眺め鼻歌の一つも口ずさめるよう精進していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

